

来週の『売り物』記事はこれ



2016年10月7日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

恩讐を越えて ロシアバレエと歩んだ人生

9日(日)



本場のロシアバレエを日本に紹介し、戦後のバレエ界を先導した薄井憲二さん(92)＝写真。世界中のコンクールで審査員を務めるなど華麗な人生をたどったかにみえますが、東大在学中に徴兵されて旧満州(現中国東北部)で終戦を迎え、シベリアに抑留された過去を持ちます。「素朴なロシア人には何の恨みもない」と言う薄井さんは今年



4月、ロシアのバレエ専門誌が贈る「踊りの魂賞」を日本人として初めて受賞するため、モスクワを訪ねました。その際、かねて存在を知らされていたある巻物を確かめようと国立軍事公文書館に足を運びます。「あんなものに加担した人がいたのが許せない」。70年前、同じ日本人抑留者のとった行為に目を背け、涙しました。金糸に縁取られ巻物には独裁者スターリンを礼賛する日本語が長さ25センチにわたって刺しゅうされていました。抑留者仲間のわずかな給料を没収して作った「感謝状」です。薄井さんの人生に迫りました。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

天下を統一したのにドラマでは憎まれ役…

徳川家康 なぜ嫌われる？

夕刊特集ワイド 11日(火)



クライマックスを迎えたNHK大河ドラマ「真田丸」で、主人公・真田信繁(幸村)の敵役として存在感たっぷりなのが、かの徳川家康です。このドラマに限らず、なぜか腹黒い権力者として描かれることが多く、戦国武将の中でも人気は今一つ。約250年も続く天下太平の世を築いた偉人なのに、どうして? 政界きっての家康好きとして知られる民進党の長妻昭衆院議員や、歴史学者らに語ってもらいながら、「謎」に迫ります。

美容医療のウェブ広告規制

医療・福祉面 9日(日)

「幹細胞治療でしみが50%減少」「アイドルの〇〇さんも選んだ」——。美容クリニックのウェブサイトで行っているこうした誇大な宣伝を規制する検討を、厚生労働省が始めました。これまでウェブ上の宣伝は医療法の「広告」とみなされず、直接取り締まる法律がありませんでしたが、来年の通常国会で法改正して、科学的根拠のない不適正表示には罰則を設ける方針です。



長寿リスク社会

くらしナビA面 12日(水)から



軽度の介護保険利用者に対する料理や掃除などの生活援助サービスについて、財務省は利用者負担の拡大を提案しています。しかし毎日新聞の全国157自治体調査では、低報酬の新サービスを担う事業所は訪問介護で従来の5割弱、デイサービスで3割弱。受け皿がなくなり、軽度の要介護者が切り捨てられる恐れが強まる中、自治体や事業者の実情を探ります。

ハマりました。

くらしナビB面 12日(水)

自然の石を絶妙のバランスで積み上げるアート「ロックバランシング」。河原の石を探して拾い、積む。最後は壊す。いったい何が楽しいのでしょうか。大小の石が転がる多摩川の河川敷で、東京都立川市の男性会社員(47)は「ゾクとした感覚が走るんですよ。時間があればいくらでも作りたい」と話します。小さな石の上に大きな石を乗せていくのが王道だそうです。



My Way 平野レミさん おんなのしんぶん 10日(月)



料理愛好家の平野レミさん=写真=は、みんなに愛される明るい人柄で知られます。しかし、幼少期は友達のお母さんから「レミちゃんと遊んだらダメ」と言われていたそうです。その理由は……。夫の和田誠さん(イラストレーター)と知り合った経緯や、長男の和田唱さん(ミュージシャン)と結婚した上野樹里さん(女優)をどう思っているのかについても語ってもらいます。

発達障害の子どもたち くらしナビA面 14日(金)から

2005年に発達障害者支援法が施行されてから11年が経過しました。幼児期からの支援態勢が整い始める一方、発達障害のマイナスイメージが独り歩きする傾向は根強いままです。正しい理解と対応が広がらない中で、療育に携わるプロですら玉石混交と言われます。子どもの発達障害と療育現場の知られざる実態を紹介し、支援のあり方を考えます。



シリーズ「論点 生前退位Ⅱ」

有識者会議に望む

オピニオン面 「論点」 14日(金)



生前退位の意向がにじむ、天皇陛下のおことばを受けて、安倍晋三首相の私的諮問機関「有識者会議」の初会合が17日に開かれます。特例法を軸に対応を検討する政府に対し、皇室典範改正を求める声も上がるなか、どう議論を進めるべきなのでしょうか。ノンフィクション作家の保阪正康さん、ジャーナリストの桜井よしこさんら立場の異なる識者の論に耳を傾けます。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。